

都市幼兒の情操教育に就て

大阪市御津幼稚園長

田村 好子 君

教育は子供の全生命の發展を助長し啓培することであることは私共の喋々を要しないことで、從て情操を教育することだけが教育でないことは言を俟たないのでありますが現在の教育が餘りに偏智的であり技工的であつて小賢い子供は出來てゐますが潤のある純な清い感情の持主である子供の少い様な感じが致します處から此方面の教育に一層の注意を拂はねばならぬ事かと思ひます。

特に私共のお預して居ります子供の環境たる都市の現狀を注意して見ますと恐ろしい様な感じが致します、あのむつくり眼をさましてから寝るまで騒しい自動車や電車の警笛や荷車の軌する不快な音を聞き社會のあらゆる方面に於て血腥い刃傷沙汰や不正事件が毎日の様に新聞紙の記事に現はれ、至るところの活動寫眞や劇場には俗悪なぞして強烈な刺激を子供の耳や眼を透して心に與へて居ります。更に又子供に取つて唯一の樂園であり情操教育の最高所たる家庭は全部でないにしても多くはその日の繁激な生活に追はれて家族相互の交際さへ不親密となり家族の眞の情味が減少しつゝあるではないでせうか。

かくして子供の教育を顧みるの暇がないだけならばまたしも、自分の生活にいらだつた感情を以て純眞な子供に接し不知不識の間に虚偽の生活を幼児時代より感知せしむることの恐ろしい事は想像以上であります。

これ等は子供の顔や言動を見ると直ぐわかります。都市の子供は田舎の子供の様に裕つたりとした態度がありません。中には随分先生をけつたり叩いたりする様な惨忍性の子供もあります。その惨忍性は田舎の子供が蛙のおしりに麥稈をつきさしてふくらして喜んで居るのや蛇の尻尾を持つてふり廻す様なとは質が違つてゐます。自然の惨忍性の現れでなく人爲的境遇の冷やかな處から來たのが多い様に思われます。或は子供の大なる樂しみにしてゐる毎日の辨當にお金を與へて通園の途中カス／＼のパンを買はして持たせてゐるのも見受けれます。いくら粗末なものでも母が今日は何のお菜にしてやらうか明日の辨當には何を入れてやらうかと苦心して作られた辨當はたとへ簡單なものでも子供は山海の珍味と同一に味つて呉れます。それがやがて母性愛を感じる基ともなるのであります。

此等の點を見ますと現代人の生活殊に都會人の生活は子供の情操を破壊して居ることが決して少くないと思ひます。彼れや是れやを思ふと家庭の延長たる幼稚園教育は此情操方面に大なる注意と努力とを拂はねばならんかと思ふのであります。

それでは私共は保育の實際に何ういふ風に注意して居りますかと申しますと到底茲に全部に渡つて申

上ぐるの時間を持ちませんが、ほんの一端だけでも申上げて皆様の御批判を仰ぎたいと思ひます。

先づ幼児にとつては社會の首途ともいふべき入園當初は勿論常に温顔を以て幼児に接し母性愛をもつて子供を導くのであります。子供は環境によつて身體も精神も發展するのでありますから、最善の工夫と努力とを以て其日の環境を整理して置いて子供を迎へ子供が吾れを忘れて次から次へと生活が流れて行く様に又發展して行く様に誘導するのであります、これがやがて幼稚園や先生の有難味を感じる根本的のものと思ひます。

次は園外保育であります此園外保育を従來の様に身體方面にのみ利用するのではなく、更に情操教育に價値ある様に致したいと思ふのであります。野邊に出て草摘をさせても只徒に花束を抱へてまもなく捨てしまふのでなく附近に砂原でもあればそれにさへせて花畑として水など注がせて見ることは種々の點から意義あることと思ひますが自然から得たものを自然に返すところに自然を愛し自然に對する感謝の一端ともなりはしないでせうか、神社佛閣の附近に幼児を引卒したる際は必ず先づ參拜せしめて敬虔の念を起さしめ其他野に森に海邊の幼児を連れて行つたとき蜘蛛の子を散らした様に飛び廻りますが時としては體も心も靜かにして雲雀の鳴く聲や磯打つ波の音を傾聽せしめ或は之を凝つと見つめしめる、そうした時何か知らん大きな力が實在して居ることが子供の心の扉を破つて流れ込むのであります、かくして大きな自然の生命の呼吸に子供の小さい呼氣も吸氣もびつたりあつて、しみとくと無聲の教言語

を超越した神の示現を其魂に刻み込むのであります。これがやがて大藝術や大偉人を産み出す基ともなるのではなからうかと思ひます。其他動物飼育や植物栽培乃至は稻の植付等を知的に取扱ふばかりでなく自然の心に觸れる様導くことが必要であるかと思ひます。一杯の水を草花にかけさせても一葉の大根の葉を兔にやらせても子供の心には、それだけの潤ひが出て來るのであります。或は又人は社會生活をなすことに依て多くの幸福を受けて居るのでありますが多きは其恩恵になれてこれを意識せず、若し意識しても衷心より感謝の心持を持たない様な感が致します。それですから幼兒を園外に連れ出したときや家庭などで目載した社會的事象は保育の一つとして取扱ひたいと思ひます。例へば若し郵便さんが郵便物を投込まれた時それがどうして遠方の處からはこはれたかを淳々と話してやつて社會生活の有難味を感せしめ有難うと感謝の言葉を發し得る様に導く。おまわりさんも亦同様に……。だん／＼暑くなれば水道の有難さを適當な機會に取扱ふもよい、かくすれば一杯の水を呑んでもそこには社會生活の味を加へ一杓の水を門へ撒いても共存生活の氣持よさを一層強く感するのであります。又三月節句の遊びまゝこと遊びは大人の生活の模寫であります、そこに母性愛が體現せられてゐて幼兒の生活の中に一つの貴い遊びだと思ひます。たゞともすれば冷やかな家庭の子供はまゝごと遊びで自分のお母さんを氣取つて他の者を叱りとばしたりあゝせよこようせよと顎で人を使つたりします。これは大に注意を要します幼稚園で致します七夕祭や誕生會なども此方面に價値あるものであります。又童話を聞かせるにしても

情操陶冶の目的で成る可く人情美のこもつたものを撰むことが必要であります。幸ひ子供は凡ての無性物に對し有情化する性を有つて居りますからこれを教育的に仕組んで情操陶冶に利用することは効が多いことと思ひます、たゞ大に注意を要することは藝術を解せず猥りに創作することは極めて危険であります、其外保育室内の繪畫にじても生花にしても子供の情操生活に偉大なる關係を持つて居りますから單なる裝飾と考へてはなりません更に又幼兒の情操生活に至大の關係あるものは音樂であります、その歌詞にもその曲にも自然と人生の最純美なるものを選択して與へねばなりません。ともすれば餘りにセンチメンタルのものや低級なものを與へたりしてゐることがありますが、子供の心情を傷つけることが大きいと思ひます。

茲に於てか子供の純美な情操の持主でなくてはなりませんと思ひます。特に母性愛に富んだ人でなくてはならぬと思ひます、子供が幼稚園へ來て一番たよりにしてゐるものは保姆であります。用事もないのに先生……といつて來たり餘念なく遊びに耽つてゐてふと先生の居ないのに氣がついて探し廻つてみたりすることがあります、これは子供の心に何んとはなしに物たりなさと思慕の純真な情から保姆を求めて來たのであつて其保姆の靈に觸れて安心と喜びとを感ずると共に、自分以外の存在自分よりも大なるものと相通ふ一種の靈感に觸れるのであります。此靈感が子供の心に幾度となく刻み込まれるとそれによつていつか奥深く人と通ひ神と通ずる信仰を得ることになると思ひます。若しこうした時に

何だうるさいと云ふ様な顔付をしたり、よしそんな顔付はしないでも何の理由か話して見よなどと尋ねたときは子供の心はすぐに壊されてしまふのであります。一度その心が壊されたときは再び同じ心の中に生きることは出来ません。年長けてまつしぐらに人の魂に飛び込む事の出来ないのは多くはさうした無理解な母や教育者によつて此子供の純真な情操の芽生を踏みにぢられてしまふからでありますまいか私は何うしても子供と一所に泣きも笑ひも出来る、そして子供の心をすぐに讀み得る様な保姆が、今日の様な教育の状態と今日の様な子供の家庭や社會の状態とを見る時に非常に大切なことだと思ひます。

(終)